

コフロック

屋外仕様PSA
累計出荷が15台に

コフロック（小島望社長）は2018年10月に市場投入した屋外仕様の酸・窒素・クリンドライエアPSAの販売が好調。4月末時点で累計出荷が15台（受注残含む）に達している。

同製品「ジェネベース（GENE-BASE）シリーズ」は雨風・騒音の対策をした強靱なパッケージにPSAユニット、圧縮機、ドライヤなどの各種構成機器を収納し、そのまま屋外で使用できるPSAだ。圧縮機は北越工業へ特注したものを採用。圧縮機自身も雨水の侵入を最小限に



「ジェネベースシリーズ」

抑える設計とし、トラブルを未然に防ぐ工夫を施している。

ラインナップは圧縮機の定格出力（7.5kWと22kW）や発生ガス、純度・能力に応じた全24製品だが、やはり需要が多いのは窒素PSAだ。

窒素PSAは7m³/h・5N₂95N₂m³/h・95%を標準化。これまでリフロー半田、レーザー加工、食品などの需要家へ10台以上を出荷した。出荷先の多くは工場内に設置スペースがなく、屋根の上にPSAを設置することもあるという。

また、屋外だけに需要家は雨露や風塵はもとより騒音の対策を重視している。そこで、同製品は60dB以下の低騒音設計にこだわったが、「既設PSAよりはるかに静音だと言ってくれる需要家もあった」（フローシステム営業部）という。

新型コロナウイルスの影響で、同社も営業活動に制約がかかっている。しかし電話やメール、オンライン商談を駆使しながら受注活動は継続していく方針。同社では「ジェネベースはリピート注文も期待できる。今年度は20台の受注を目指したい」としている。